

令和7年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日	令和8年3月31日
法人名	学校法人 永原学園
園名	西九州大学附属 三光幼稚園

ま と め

全体平均 3.43

<p>第2章 第3節</p> <p>満1歳以上満3歳児 未満の園児の保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に過ごしながら、スキンシップや温かい表情を取りながら関わることを大切にしました。 ・園庭にいる生き物や植物に目を向け、一緒に見たり触ったりしながら親しみをもてるように関わっていった。 ・個々の成長に応じて、一人ですべることができるように言葉がけていった。 ・園児の行動・言動をまずは受けとめるよう心がけてきた。 ・初めての食べ物も少しでも食べてみようと思えるように関わった。 ・トラブルになる時は、相手の気持ちを伝えながら関わり、どうすればよかったのか一緒に考えるように心掛けた。 ・園生活の流れを繰り返し伝えていく中で、きまりを伝えていくように心掛けた。 ・子どもの遊びの世界に入り込み、その中で子どもに言葉をたくさん投げかけることで、子どもがイメージを広げながら遊べるように自分なりに気掛けて関わった。
<p>第2章 第4節</p> <p>満3歳児以上の 園児の教育及び保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を使った色水遊びをしながら色の変化や植物などに興味をもてるように関わった。 ・感触遊びを取り入れ、それぞれ感じたことを言葉や表情で表現できるような活動をした。 ・気になることがあった時はクラスで話し、自分たちで考えながら過ごしやすい環境を作れるように関わってきた。 ・葉っぱやどんぐり等、自然物を集める中で、大きさや色を比べて楽しめるような関わりを心掛けた。 ・話すことが苦手な子どもでも、その子なりに言葉で伝えられるように関わってきた。 ・言葉での表現では個人差もあるので、子どもが何を感しているのか表情やその様子を感じ取れるようにし、一人一人の思いを受け止めてきた。 ・指示ばかりにならず、子どもが考えて動けるような言葉かけをするように意識していた。 ・子どもが思いやりの気持ちをもてるためにも、教師自身が思いやりの行動が大切だと意識しながら子どもと接した。
<p>第2章 第5章</p> <p>教育及び保育の実践 に関わる配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの変化に気づけるよう、一人一人をよく観察し、保護者にも伝えていった。 ・関わることに難しい子どももいたが、気持ちを受け止め安定した園生活が送れるように心掛けた。 ・意欲的に取り組みたい活動を提供するよう、日頃の遊びの様子などをしっかりと観察するように心掛けていた。 ・いつもと違う様子が見られたときには、保護者につなぎ、その子の体調はもちろん、他の子への感染の可能性があるような時には予防できるように配慮した。 ・その子なりの居場所が早く見つけられるように考え、関わった。集団の中に入れようとするのではなく、個別対応できるようにし、焦らず長い目で子どもを見ていくよう意識した。保護者との連携も欠かさないように心掛けた。
<p>第3章</p> <p>健康及び安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー児の給食では必ず保育者も確認し、安全であることを目視してから提供をした。 ・同じ事故が起こらない様記録し、全職員が共通理解に努めてきた。 ・災害時には、速やかに避難できるよう、施設の入出口や廊下、非常階段付近には物を置かないことや避難場所経路を掲示し、共通理解に努めた。 ・怪我が起きたときには、情報を集めたり、防犯カメラで確認するなどして原因を把握できるように努力した。 ・感染症が流行の時期には、色々な職員の意見を聞いたりしながら園医につなぎ、適切な対応ができるように心掛けた。 ・重大事故に関しては、計画作成、見直しをする際に改めて防止策を頭に入れると共に、危険が予測された際は職員に注意喚起や再確認をするなどして対応できるように心掛けた。
<p>第4章</p> <p>子育ての支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週写真付きの連絡帳を配信し、園の様子を保護者に伝えることができ、園と家庭で子どもの成長の喜びを共感してきた。 ・子育て支援では、個々の保護者の思いを受けとめ、安心できるような雰囲気づくりが心がけた。 ・悩んでいる保護者に対しては、面談を行うなどし、その後も気がけて声を掛け、受け止めるように心掛けた。 ・保護者とともに子どもの成長と一緒に喜べるよう、日頃から成長を伝えるようにしていた。 ・送迎時や連絡帳のやり取り等で、日々の様子を伝えている。また行事等で保護者と顔を合わせる際には、自分から積極的に話し掛けるように心掛けていた。
<p>第5章</p> <p>職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回、子どもの事例をあげ、職場内研修をすることができた。事例を交えることで具体的な意見交換ができ、より深い学び合いになるように取り組んできた。 ・研修で学んだことを職員間で情報を提供し、園全体での保育実践に繋げることができたと感じる。 ・常に子どもにとって1番を頭に置き、保育し接するよう心がけてきた。 ・保育者として専門性を高める為に、園内外の研修を受け、学んだり、実践に繋げたりして、保育に努めてきた。
<p>総合</p>	<p>自己点検においては、1年に一度、自らの保育について振り返る機会となり、真摯に評価をしていると感じたが、自分の保育に対して他者や保護者はどう評価しているか、またどう望んでいるかの視点も必要だと考えたので、令和8年度はその課題について考える研修機会を設けたい。</p>

データ表

データグラフ

内容	項目数	平均															
「3歳未満児保育」	32	3.54	<table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>「職員の資質向上」</td><td>3.14</td></tr> <tr><td>「子育て支援」</td><td>3.10</td></tr> <tr><td>「健康・安全」</td><td>3.63</td></tr> <tr><td>「教育保育の配慮事項」</td><td>3.47</td></tr> <tr><td>「3歳以上児保育」</td><td>3.72</td></tr> <tr><td>「3歳未満児保育」</td><td>3.54</td></tr> <tr><td>「乳児保育」</td><td>0.00</td></tr> </table>	「職員の資質向上」	3.14	「子育て支援」	3.10	「健康・安全」	3.63	「教育保育の配慮事項」	3.47	「3歳以上児保育」	3.72	「3歳未満児保育」	3.54	「乳児保育」	0.00
「職員の資質向上」	3.14																
「子育て支援」	3.10																
「健康・安全」	3.63																
「教育保育の配慮事項」	3.47																
「3歳以上児保育」	3.72																
「3歳未満児保育」	3.54																
「乳児保育」	0.00																
「3歳以上児保育」	30	3.72															
「教育保育の配慮事項」	16	3.47															
「健康・安全」	29	3.63															
「子育て支援」	18	3.10															
「職員の資質向上」	9	3.14															
計	134	3.43															

